

令和6年3月近江八幡市教育委員会定例会（要旨）

1. 開催日時 令和6年3月21日（木） 午前9時33分～10時28分

2. 開催場所 近江八幡市水道事業所3階 AB会議室

3. 出席委員

教育長	大喜多 悦子
教育長職務代理者	安倍 映子
委員	西田 佳成
委員	大更 秀尚
委員	圓山 淳子

4. 事務局出席者

教育部長	田村 裕一
教育総務課長	岡村 祥子
教育部次長兼学校教育課長	森 茂次
教育部次長兼生涯学習課長	富江 康子
教育部次長兼学校給食センター長	安田 貴裕
近江八幡市立図書館長	奥村 恭代
教育部次長兼スポーツ課長	太田 明文
国スポ・障スポ推進課長	伊崎 裕二
幼児課長	畑 明宏
教育総務課長補佐	夜野 友昭
教育総務課副主幹	竹浪 雄大

5. 会議を傍聴した者 0人

6. 会議次第

【議案】

○議第3号 令和6年度近江八幡市教育行政基本方針について

○議第4号 近江八幡市通級指導教室の設置等に関する要綱の一部改正について

【協議事項】

- 近江八幡市立保育所・認定こども園における職員配置について及び近江八幡市公立幼稚園における一学級の園児数について

【報告事項】

- 3月議会における質問に対する回答等について
- 令和6年6月15日(土)伝えよう！熱い想い2024 作文発表審査基準について
- 第3次近江八幡市子ども読書活動推進計画（案）について

7. 議事の経過

(1) 開会（日程確認）

- ・教育長が3月定例会の開会を宣言
- ・出席委員定数の確認
- ・日程について 承認

(2) 会議録の承認

- 2月定例会の会議録 承認

(3) 教育長挨拶及び報告

3月に入って春分の日を過ぎたが、まだ雪が降っていて寒い。そのような季節の中で、卒業式と卒園式に参加いただき、春の訪れも感じてもらいながらの式であったと思う。それぞれの学校園で感動的な場面がいくつもあったと聞かせていただいております、よかったと思っています。

それでは、先月から今日までの間に参加させていただいたいろいろな会議等について報告させていただきます。

一つ目は、3月議会が開催され、代表質問と個人質問があった。質問の詳細については報告事項としてまとめてあるので、また見ていただきたいが、今回は健康ふれあい公園についての質問が結構あった。それと、今後スクールガードについて考えていかなければならないとの発言もあった。そして、不登校支援について授業料支援をしているが、フリースクールの運営資金の補助金についての質問もあった。そのほか、学校教育に関することでは、読み聞かせの効果について、子どもの眠育について、Apple 認定校や Google for Education 事例校のようなものに取り組んではどうかという意見や質問等もあった。また、消費者教育について、小学校から中学校へ、もっと広げていってほしいという意見もあった。教育環境については、来年度からサポートルームに支援員が配置できることになったが、それについての質問等もあった。また、マナビの施設が老朽化していることと関連して、子ども・若者の居場所についての施策をどのように考えているのかという質問等もあった。

二つ目は、3月2日に「学校保健を語る会」があった。出席いただいた委員さんもおられたと思うが、その後に学校保健を語る会の、いわば反省会のような「理事会」もあった。そこで、今回の語る会については、「どの園の発表も良かった」、「北里幼稚園のPTAの発表も素晴らしい取組であった」、「子ども達の発表が堂々としてしっかりしている」、「自尊感情を育む上でも良かった」というようなアンケート結果も紹介していただいた。また、講演についても「分かりやすく、参考になることも多く、今後日々の生活に取り入れたい」と答えている人もいて、「良かった」という意見で82%を占めていた。また来年も、同じように取り組んでいただけたらと思う。

3月3日には、絵本作家の「くせ さなえ」さんの講演会があり、私も参加させていただいた。くせさんは近江八幡市内に在住される絵本作家で、とても誠実な人柄を感じられ、講演が終わった後もくせさんのところに人の列ができるぐらいであった。本を購入された方もおられたし、委員さんも読み聞かせ等で活用していただいていると思う。

それから、3月4日には、北里小学校のエレベーターが完成したので、その竣工式に参加した。学校運営協議会の会長と副会長に案内があり、地元の議員3名の方もいらっしゃって、工事関係者の方も来ておられた。子ども達は5年生が順次エレベーターに乗っていて、いいエレベーターができた実感されたと思う。これから活用してくれると思っている。

また、3月6日には、「青少年問題協議会」があった。警察や少年センターから青少年の状況の報告があった後、委員さんから不登校の子ども達の支援についての意見もあった。来年からの小学校のサポートルームのことについても、こちらから支援員がつくということもお話して、ぜひとも子ども達が安心して過ごせる場所にしてほしいというご意見もいただいた。

それから、3月11日に、尾賀亀さんと村松報恩会さんに、それぞれ絵本等の寄附に対するお礼に伺った。

そして、先日卒業式を迎えたということだが、明日は、教職員の管理職と市職員の異動内示の日なので、またお知らせさせていただきたいと思う。

(4) 議事

◆議第3号 令和6年度近江八幡市教育行政基本方針について

【事務局説明】…教育総務課 資料に基づき説明

【質 疑】

○安倍委員

「生きぬく」の表記について、教育大綱では「生き抜く」が漢字表記だが、今度変えられるときは直してほしい。

それと、年度当初の説明の際に、皆が同じ方向を見て取り組めるように、学

校も園も、公私ともに聞いていただけるよう共有してほしい。

○教育長

「生きぬく」の件でご指摘いただいたが、元々の県の事業名が「生きぬく力の礎育み事業」ということで、事業名として平仮名表記をしているだけなので、普通の文章中で「生き抜く力」と書くときは漢字表記でもいいと思っている。事業名として引用するときは、県がそのようにされているので、そのまま書くことになる。

○安倍委員

学校によっては、「抜く」ということが強い表現になると思うので、平仮名表記にされている部分もあると思う。

○教育長

それは文章を書く人のセンスであって、それをわざと書きたい人と平仮名にしたい人というと思う。

○安倍委員

県が平仮名になってから、ちょっと私もどう考えたらいいかなと思っている。

○教育長

おっしゃるとおり、どちらかに統一していたら何も気にならないと思うが。

○安倍委員

例えば、県の表記は平仮名、教育大綱は漢字、これはこれで平仮名、ということであっても、別にそれは統一しなくてもいいのか。

○教育長

事業名は表記どおりに平仮名にしなければならないと思うが、普通の文章は漢字であっても別に間違いでも何でもないので、その前にそのような表記でいくと決めて書いていたのであれば、それでいいと思う。ここで皆さんが「平仮名にしたい」と言われたら、そうしたらいいかなとも思うが、一人一人のセンスだと思う。

○教育総務課

ご意見があったということで、また今度の機会に検討する。

○安倍委員

それでいいと思う。

○大更委員

これは、説明会の資料とするときは、カラー印刷で出すのか。

○教育総務課

その予定である。

【採 決】

令和6年度近江八幡市教育行政基本方針について

承認

◆議第4号 近江八幡市通級指導教室の設置等に関する要綱の一部改正について

【事務局説明】…学校教育課 資料に基づき説明

【質 疑】

○安倍委員

先ほどの方針のところでも、支援を要する児童が通常学級でも小学校で12%、中学校で10%いるということで、特支はやはり数が要るなど感じる。これまでも各校に充実させてきていただいていると思うが、ゆくゆくは全学校に設置していくという方向性は、持っていただいているのか。国県の現状としてもどうか。

○学校教育課

国の方針としては、令和9年までに基礎定数化を図るということで、毎年予算を拡充している。つまり、令和9年には、一応全ての小学校・中学校で、通級指導教室を設置するという目標がある。

それもととても大事だと思うが、もう一つは、学校規模に応じてどうなのか。今のところ一つの小中学校に二つの通級指導教室を持っているという市町はないが、例えば、金田小学校のあの規模の人数であっても教室が一つでいいのかという問題もある。

県の教育委員会の特別支援教育課とも電話で協議はしているが、その思いというのはお互い持っているので、基礎定数化を先に目指していくのか、それとも大規模学校に複数の教室を設置する方がいいのか、今後そういったところを議論しながら進めていかなければならないと思っている。

【採 決】

近江八幡市通級指導教室の設置等に関する要綱の一部改正について 承認

●協議事項

◎近江八幡市立保育所・認定こども園における職員配置について及び近江八幡市公立幼稚園における一学級の園児数について

【事務局説明】…幼児課

【質問等】

○西田委員

幼稚園の1学級の人数が3歳児であれば25人から20人になるが、4歳5歳もそうだが、この場合に部屋数は足りるのか。

○幼児課

部屋数については、ゆとりのある園と、ゆとりのない園もある。馬淵こども園や北里幼稚園であれば、部屋の余力としては1部屋ぐらいしか空いていない。したがって、人数が超過してくると、割れなくなる可能性はある。金田幼稚園や安土幼稚園については、まだ部屋があるので、もう一学級ずつ増えても問題ないと思う。

○安倍委員

根本的な話だが、文部科学省は、私が勤めていた頃から「35人」で変わっていない。これほどまでに子育て支援であるとか、子どもの情緒の安定であるとか言いながらも、何も変わっていない。これは幼児課よりも学校教育課に聞くべきかとも思うが、社会はずいぶん変わっているのに、50年間一緒というのはありえない気がするがどうか。

○学校教育課

また県の方にそういう意見があったことを伝えて、見解を聞いておく。

○安倍委員

よろしく願いしたい。

○教育長

小学校は、徐々に減ってきている。

●報告事項

◎3月議会における質問に対する回答等について

【事務局説明】…教育総務課

【質問等】

(特になし)

◎令和6年6月15日(土) 伝えよう! 熱い想い2024 作文発表審査基準について

【事務局説明】…生涯学習課

【質問等】

○西田委員

審査基準②について、「中学生らしい」というのは、何をもって中学生らしいのか、すごく難しいと思う。何か難しいことを言ったら中学生らしくないのかというと、そうではないと思う。だからといって、少し子ども染みたことを言ったらだめなのかというとそうでもない。要は、自分の言いたいことがきちんと意見として文にまとめられているかという部分が大事なのではないかと思う。だから、何かこの表現を「中学生らしい」ではなく、少し違った表現で

もいいのかなどとも思う。

○安倍委員

私も西田委員と似た意見だが、話合の際に同点数になったときに、「さあ、どちらか」という話で、どんどん専門性の高いレベルの話合いをされる。そのときに、私達委員の意見は、反映するのもしないのか。委員は、どういう立場で発言したらいいか迷う。去年から審査に入らせていただいているのだが、今までは「全体を見てください」という参加型の委員の立場だったが、それが審査をする役割ということになると、ここに参加させていただく役割として、こういう見方をしているのか。そうではなくて、これはもう今までどおりの中学校の先生や小学校の先生が専門的に見ていただいたらいい分野であって、私達は全体に参画していけばいいのか、考えてしまう。

○教育長

育成市民会議の長やPTA連合会から代表で来ておられる方等の意見もある。もう少し前は、中学校長と育成会議の会長さんが入っているときもあったり、その審査の内容も各項目得点ではなく、全体を見て1番目2番目がどの子であるとかいうときもあったりして、いろいろなパターンがある。それで決まってしまう部分もあって、何がいいのかを考えていかなければならないと思う。委員のおっしゃるように、専門性というところで伝わらない部分があったと私も思っている。

○大更委員

中学生が自分の思いを発表するだけの場であれば、その審査基準は大まかでもいいのかもかもしれないが、これが県の方へ行ったときに多くの方に発表してもらったり伝えていったりということになると、ある程度しっかりとした基準、専門的な部分がどうしても必要になってくると思う。そういう点からいくと、やはりその辺のところを見ていただけるような審査員の方もとても大事なので、個人の意見としては、この様に観点がはっきりしていて、「これについてどうですか」という意見をいただき、その点数が出てくる方がいいのではないかと思う。

審査基準⑤の「表現力」については、作文の内容が今一つでも、表現力が高いとどうしてもそちらの方に引っ張られる部分があるかもしれないが、生徒の本当に率直な思い、意見を引っ張り出してやるためには、こういう専門的、具体的な視点は必要なのではないかと思う。

配点が5点満点というのは、4点と2点という間の点数の境界はどこになるのかなとも思う。例えば、3点満点ぐらいにした方が、より多くの方の基準がはっきりするという気もする。

○教育長

1点は、なかなか付けにくいかもしれない。3点か2点になると思う。

○大更委員

4点満点というときもあった。

○教育長

去年は、5点は5点でも配分が違った。

○生涯学習課

去年は、発表の表現力と作文の内容の審査の基準が曖昧だったので、どうしても発表力のある生徒さんの方に焦点が行きやすかった。

○教育長

ただ、県に行ったときには、発表の前に書類審査を通らないといけない。

○大更委員

その思いが文章として表現できるかどうかということがまず大事である。

○安倍委員

ここまで専門性を高めていくのであれば、やはり専門性のある先生方がしっかりと審査して、見てあげることが大事なのではないか。私たちは、情で見してしまう。情で見たいけないが、その子の家庭環境や背景等いろいろなものを見てしまう。意見として聞いておいてほしい。

○生涯学習課

青少年市民会議と市PTA連合会と教育委員会の3者で共催させていたっている行事なので、この審査基準についても、ここでご意見いただいたことを踏まえて後の市PTA連合会と青少年育成市民会議の方にもお伝えしなければいけないと思っている。

ただ、審査員がどのような経緯でこうなってきたかということについては、私もあまり詳しく存じ上げていないので、その辺をどちらがいいのかということは、どこでどのように決めたらいいのかと思う。安倍委員がおっしゃったように、より専門性のある方のみでいった方がいいのか、それともやはり三者でするので、それぞれの代表の方がいいのか、その辺りをどのように考えさせていただいたらいいのか難しい。

○大更委員

3者おられるから、そこは外せないのではないかと。県でも専門の方が2～3人おられるが、必ずそれとともにPTAの代表の方や他の団体の方も入っている。

○安倍委員

PTAといっても入っていない学校もあり、任意団体として捉えたとしたら、公平性としてはどうなのか。兄弟社さんもおられるので、これからはそういうことも考えて、生涯学習としてどのように捉えていくかをはっきりと表していただいたら、別に「この団体が入っていないのでは」という話は、別にいいのではないかと思う。根拠さえしっかりと持っていればいいのではないかと。

○教育長

西田委員がおっしゃったように、「中学生らしい」という言葉は、別になくてもいいかなと思った。前段にあるように「将来の生き方や夢と結びついた」

何かを書いてあげればいい。

ただ、これを承認していただけるなら、各中学校にはしっかりと伝えていた
だかないと、教員の方も雰囲気で行っている面がある。

○生涯学習課

それでは、「中学生らしい」の部分抜く方向で、検討させていただく。

○教育長

審査をする者についても、また検討していただきたいと思う。

◎第3次近江八幡市子ども読書活動推進計画（案）について

【事務局説明】…生涯学習課

【質問等】

○安倍委員

いろいろと考えていただいて、かなり網羅されたものになっていると感じた。読書活動についての各校園の取組については、今年度も研究会等があり何
度か寄せていただいたが、充実してきていると思う。この計画案が最終目標で
はなく、作成した後の検証と改善によって読書推進の質をどのように向上さ
せていくかということが大事なのではないかと思う。進捗管理をどのように
して行うかが大事であって、もしかすると途中で計画を変えた方がいいので
はないかという場合も出てくるのではないかとも思う。そういった意味で、柔
軟性を持って取り組んでいただきたいと思う。

○大更委員

数値目標としてきちんと書かれていて、とても分かりやすくいいと思う。

○圓山委員

アンケートについて、小2、小6、中2、高2を対象としたアンケートにな
っているが、16ページに「中2と高2は多忙」とある。この多忙というのは、
受験、部活、勉強等もあって多忙なのは分かるが、他の学年も多忙だと思う。

○教育長

確かに中2と高2が多忙といったら、皆が多忙ということになる。それに、
多忙と決めつけてしまっているような書き方でもある。

○生涯学習課

書き方を検討させていただく。

8. その他

9. 閉会

教育長が3月定例会の閉会を宣言